

### Ⅲ 第 25 回市政世論調査 調査結果活用事例

#### ●広報いなざわに求める工夫について【秘書広報課】

設問	<p>1. 市政の情報を得るために、どのような媒体を利用していますか。また、「広報いなざわ」をどの程度読んでいますか。</p> <p>2. 今後、「広報いなざわ」にどのような工夫や改善が必要だと思いますか。</p>
調査結果	<p>「広報いなざわ」が 84.7%と最も高く、次いで「市ホームページ」が 30.2%、18・19 歳では「SNS (Facebook, Twitter, YouTube など)」が約 4 割と、他の年齢よりも SNS 利用率が高い結果となりました。また、広報は「興味のある部分だけ読む」が 50.2%と最も高くなりました。</p> <p>全ての年代で、「情報を必要最小限にまとめて分かりやすく説明する」が 49.1%と最も高くなりました。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>情報を得る媒体として「広報いなざわ」を利用する方が各世代で高い結果となったことを踏まえ、情報を精査し分かりやすく掲載するほか、写真やイラストなどを有効に活用することで、見やすく読みやすい広報を目指し、令和 4 年 4 月号からデザインを大幅に変更しました。</p> <p>ホームページや SNS についても、市公式 LINE を新たに開設するなど全ての世代の人に分かりやすく情報を発信できるよう、引き続き取り組んでいきます。</p>

#### ●稲沢おでかけタクシー実証実験事業の認知度について【地域協働課】

設問	<p>平成 31 年 4 月 1 日から、高齢者や障害のある方、妊娠中の方などの外出を支援する事業として「稲沢おでかけタクシー実証実験事業」を実施しています。この事業について、どの程度知っていますか。</p>
調査結果	<p>「知らない」が 65.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」が 24.6%、「内容を含め、知っている」が 9.1%となりました。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>認知度が低調であることが判明したため、本制度の本格運行の開始となる令和 3 年 4 月 1 日に先立ち、「広報いなざわ令和 3 年 4 月号」に制度内容のお知らせを掲載しました。</p> <p>また、事業の対象となる方へ直接情報が伝わるよう、稲沢警察署に高齢者の方の免許証返納の際に同制度の案内を行っていただくよう協力を依頼しました。</p>

## ●稲沢市地域福祉計画・地域福祉活動計画の推進に向けて【福祉課】

設問	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域の活動やボランティア活動に参加したことがありますか。</li> <li>台風などの災害時に避難する際、家族、近所の人など、手助けをお願いできる人がいますか。</li> <li>稲沢市の福祉事業・活動全般について、どの程度満足していますか。</li> </ol>
調査結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>「参加したことがない」が53.8%と最も高く、次いで「以前、参加したことがある」が31.4%、「日ごろから参加している」が13.6%となりました。</li> <li>「いる」が59.9%、「いない」が38.7%となりました。</li> <li>「分からない」が55.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば満足」が22.5%、「どちらかといえば不満」が13.7%となりました。</li> </ol>
活用した事例の進捗状況	<p>調査時での第4次稲沢市地域福祉計画・地域福祉活動計画における目標指標の現状を把握することができました。令和6年度の最終評価までに、事業を推進しながら目標に近づけていきます。</p>

## ●スマートフォン向けごみ分別アプリの導入について【資源対策課】

設問	<ol style="list-style-type: none"> <li>ごみの収集日や分別方法を知りたいとき、どのような媒体を利用しますか。</li> <li>ごみの分別方法を検索したり、ごみの収集日をお知らせする機能があったスマートフォン用アプリ（ごみ分別アプリ）を導入した場合、利用したいと思いますか。</li> </ol>
調査結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>「ごみ・分別カレンダー」が84.1%と最も高く、次いで「資源とごみの分別辞典」が33.5%、「市ホームページ」が19.8%となっています。</li> <li>「分からない」が42.7%と最も高く、次いで「利用したい」が34.5%、「利用したくない」が21.9%となりました。「利用したくない」「分からない」の理由は、「スマートフォンをあまり使用しない（持っていない）」が33.2%と最も高く、次いで「既存の媒体を利用する」が32.0%、「情報を調べる頻度が少ない」が26.4%となりました。</li> </ol>
活用した事例の進捗状況	<p>稲沢市では、人工知能を活用した「自動会話プログラム」である「AIチャットボット」を導入しており、現在はこの「AIチャットボット」の機能である「ごみの分別ガイド」を活用していただくようご案内しています。</p> <p>しかしながら、あくまで「AIチャットボット」の一機能である「ごみの分別ガイド」とごみ分別アプリには機能的な差異があり、情報発信は複数の媒体で行う方が周知効果も見込まれることから、情報発信の拡充が必要なタイミングに合わせてごみ分別アプリも導入していく考えです。</p> <p>今後、市ではプラスチック資源の再利用促進のため、プラスチック製品の分別回収を進めていきたいと考えています。ただし、その場合収集方法などの大幅な変更を周知する必要があるため、そのタイミングに合わせて、ごみ分別アプリを導入することで、さらなる利便性の向上を図ってまいります。</p>

## ●住宅用火災警報器の普及率向上および適切な維持管理の徹底【消防本部予防課】

設問	<p>1. お住まいの住宅に住宅用火災警報器は設置されていますか。設置していない場合、設置していない理由は何ですか。また、設置する義務があることは知っていましたか。</p> <p>2. 設置している場合、住宅用火災警報器の作動確認を半年以内を実施しましたか。また、実施した結果について選んでください。</p>
調査結果	<p>1. 「設置している」は 68.4%、「設置していない」は 26.2%となりました。 「設置していない」理由は、「必要性を感じない」が 33.9%で最も高く、次いで「価格が高い」が 25.0%、「どこに設置するかわからない」が 20.3%となりました。設置する義務があることは「知らなかった」が 41.8%となりました。</p> <p>2. 作動確認を「実施した」が 26.4%で「実施していない」が 71.5%となりました。その中で「故障」「電池切れ」のあった割合は 3.5%という結果となりました。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>調査結果を踏まえ、設置率の低い高齢者世帯への啓発強化のため、令和3年度から地区老人会に出向し、住宅用火災警報器の設置及び設置後の維持管理の必要性等を説明する活動を実施しています。</p> <p>また、設置率が低い地域に重点を置き、対象地域内の商業施設にて全国火災予防運動中の啓発活動を予定しています。</p>

## ●安全でおいしい水の供給に向けて【水道業務課】

設問	<p>飲料水として、もっとも利用する水は何ですか。また、「水道水」以外を利用している理由は何ですか。</p>
調査結果	<p>「水道水」が 39.8%と最も高く、次いで「浄水器で浄水した水道水」が 19.1%、「市販のペットボトル入りの水」が 17.2%となっています。</p> <p>「水道水に問題はないが他の水の方が良いと思うから」が 28.9%と最も高く、次いで「水道水は安全性（水質）に不安を感じるから」が 22.1%、「水道水は塩素（カルキ）臭がするから」が 15.5%となっています。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>第2期水道ビジョンで示されている目標の実現方策である「水質管理体制の充実と対策の実施」及び「情報発信」における達成度を検証することに利用しています。</p> <p>また、消費生活展などでの市販のペットボトルと水道水との飲み比べなどのイベントやペットボトル「いなぎの水」の配布などを通じて、水道水のおいしさと安全性を PR することで、飲料水として水道水を使っただけのよう啓発しています。</p>

## ●いきいきいなざわ健康 21（第2次）計画推進に向けて【健康推進課】

設問	<p>1. 次の病気のうち、たばこが影響すると知っているものはありますか。</p> <p>2. あなたは心身ともに健康であると思いますか。</p> <p>3. 日常生活（仕事や家事などを含む）において、1日にどの程度歩いていますか。</p> <p>4. 1日に3回の食事をどの程度摂れていますか。</p>
調査結果	<p>1. 「肺がん」と認識している人が96.3%と最も高く、次いで「気管支炎」が69.8%、「ぜんそく」が68.4%となりました。</p> <p>2. 「やや思う」が41.8%と最も高く、次いで「あまり思わない」が26.3%、「そう思う」が19.5%となりました。</p> <p>3. 「30分以上～1時間未満」が35.4%と最も高く、次いで「30分未満」が27.6%、「1時間30分以上」が21.5%となりました。</p> <p>4. 「ほぼ毎日食べる」が83.1%と最も高くなりました。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>いきいきいなざわ・健康 21（第2次）計画中の評価指標として活用し、達成状況を確認しました。令和5年度の最終評価までに、事業の推進をしながら目標に近づけていきます。</p>

## ●市民に利用される市民病院に向けて【市民病院管理課】

設問	<p>あなたや家族の方が病気などになったとき、稲沢市民病院を利用しますか。また、利用しない理由は何ですか。</p>
調査結果	<p>「利用する（既に利用している）」が41.4%と最も高く、次いで「わからない」が34.1%となりました。</p> <p>「利用しない」、「分からない」の理由として、「自宅から遠く、不便」が43.2%と最も高く、次いで「待ち時間が長い」が19.5%となりました。</p>
活用した事例の進捗状況	<p>「待ち時間が長い」ことで市民病院を利用しない方が20%弱いることから、デジタルサイネージへの番号表示や予定時間より遅れている際には声がけをするなど少しでも待ち時間を短縮できるよう院内全体で取り組んでいます。</p> <p>また、「自宅から遠く、不便」との回答についても、「遠くても市民病院にかかりたい」と思ってもらえるような信頼される病院を目指し、日々の業務に当たっています。</p>